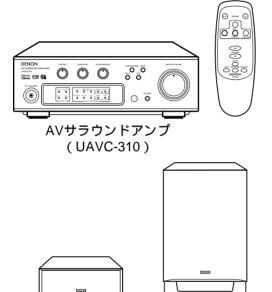
DENON
取扱説明書

DHT-310

HOME THEATER SYSTEM

ホームシアターシステム

AVサラウンドアンプ
（UAVC-310）

センター用スピーカー
（USC-C310）

スーパーウーハー
（USW-310）

フロント/サラウンド用スピーカー
（USC-A310）

ホームシアターシステム DHT-310は、AVサラウンドアンプ（UAVC-310）フロント/サラウンド用スピーカー（USC-A310×4台）、センター用スピーカー（USC-C310×1台）とスーパーウーハー用（USW-310×1台）で構成されています。

安全にお使いいただくためにー必ずお守りください。

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は、後日お役に立つこともありますので、必ず保管してください。

目 次

1 安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

絵表示について　この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

[絵表示の例]

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

警 告

■ 安全上お守りいただきたいこと

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

電源プラグをコンセントから抜け

煙が出ている、変なにおいがする、異常な音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですので絶対におやめください。

内部に異物を入れない

通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

警告 つづき

■ 安全上お守りいただきたいこと

水が入ったり、濡らしたりしないように

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。火災・感電の原因となります。

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

キャビネット（裏ぶた）を外したり、改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、触ると感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。
この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

雷が鳴り出したら

電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

落としたり、キャビネットを破損した場合は

まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■ 取り扱いについて

風呂・シャワー室では使用しない

水場での
使用禁止

火災・感電の原因となります。

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器を置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

この機器の上に小さな金属物を置かない

万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠注 意

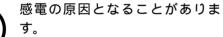
■安全上お守りいただきたいこと

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは

電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

電池を交換する場合は

極性表示に注意し、表示通りに正しく入れてください。間違えますと電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。指定以外の電池は使用しないでください。また新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

長時間音が歪んだ状態で使わない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

■置き場所について

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど、高温になるところ

安全上のご注意（つづき）

⚠ 注 意 つづき

■ 置き場所について

壁や他の機器から少し離して設置する

壁から少し離して据え付けてください。また放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

■ 取り扱いについて

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- 仰向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたんや布団の上に置いて使用する

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

移動させる場合は

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

この機器の上にテレビなどを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

■ 使わないときは

長時間の外出・旅行の場合は

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

■ お手入れについて

お手入れの際は

安全のため電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。感電の原因となることがあります。

5年に一度は内部の掃除を

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。
なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

2 取り扱い上のご注意

（1）AVサラウンドアンプ（UAVC-310）

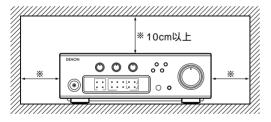
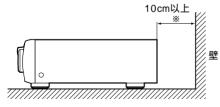
設置の際のご注意

■ 本機やマイクロコンピューターを搭載した電子機器をチューナーやテレビと同時に使用する場合、チューナー・テレビの音声や映像に雑音や画面の乱れが生じることがあります。このような場合には次の点に注意してください。

◎本機をチューナーやテレビからできるだけ離してください。

◎チューナーやテレビのアンテナ線を本機の電源コードおよび入出力などの接続コードから離して設置してください。

◎特に室内アンテナや300Ωフィーダー線をご使用の場合に起こりやすいので、屋外アンテナおよび75Ω同軸ケーブルのご使用をおすすめします。

■ 放熱のため、アンプユニットの天面、後面および両側面と壁や他のAV機器などとは10cm以上離して設置してください。（下図参照）

その他のご注意

■ 入力端子に機器を接続していない状態で入力の切り替えをおこなうと、クリックノイズが発生することがあります。このような場合は、主音量調節つまみを絞るか、入力端子に機器を接続してください。

■ 電源ボタンを押してスタンバイ状態にしても、一部の回路は通電していますので、外出やご旅行の場合は必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ スピーカー端子には、ミューティング回路が組み込まれています。このため、電源投入後数秒間は出力信号が大幅に減衰されます。この動作時に音量を調節しますと、ミューティング終了後非常に大きな出力となりますので、音量調節は必ずミューティング終了後におこなってください。

■ 説明のためのイラストは、原型と異なる場合があります。

■ 取扱説明書を保存してください。
この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保存してください。また、裏表紙の記入欄に必要事項を記入しておくと便利です。

お手入れについて

■ キャビネットや操作パネル部分の汚れを拭き取るときは、柔らかい布を使用して軽く拭き取ってください。

◎化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

■ ベンジン・シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質したり変色することがありますので使用しないでください。

使わないときは

■ ふだん使わないとき

◎電源ボタンを押してスタンバイ状態にしてください。

◎外出やご旅行の場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ 移動させるとき

◎衝撃を与えないでください。

◎必ず電源プラグをコンセントから抜いて、接続コードを外したことを確認してからおこなってください。

取り扱い上のご注意（つづき）

（2）スピーカーシステム（USC-A310、USC-C310、USW-310）

設置の際は設置場所・設置方法の安全性を十分ご確認ください。

スタンド、ブラケットなどを使用する場合はそれらの説明書に従い、安全性を確認の上ご使用または設置してください。落下によるいかなる損害、事故についても当社はその責を負いません。

設置の際のご注意

スピーカーシステムの音質は、部屋の大きさ・形態（洋室、和室）・設置のしかたによって変わりますので、次のことに留意して設置してください。

■ スピーカーシステムをレコードプレーヤーと同じ台や棚の上に設置するとハウリングを起こすことがありますので、ご注意ください。

■ スピーカーシステムの背面や前面に壁やガラス戸などがある場合には、共振や反射を防止するために厚手のカーテンなどを掛けるようにしてください。

■ **スピーカーシステム**

（USC-A310、USC-C310、USW-310）はテレビとの近接使用が可能な防磁形スピーカーシステムですが、テレビの種類によっては色むらを生じる場合があります。その場合には一度テレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁回路により、画面への影響が改善されます。その後も色むらが残るような場合には、スピーカーをさらに離してください。

■ **センター用スピーカー（USC-C310）**は設置する場所によって、前面が上向きまたは下向きになるように設置してください。耳より高い位置に設置する場合は前面が下向きに、床に設置する場合は前面が上向きになるように設置することをおすすめします。付属のすべり止め（厚さ約2mmのコルク）を貼って調節してください。

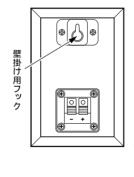
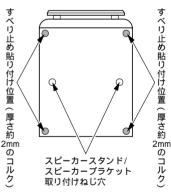
【設置例】

センター用スピーカー
USC-C310
下向き
上向き
センター用スピーカー
USC-C310

■ **フロント/サラウンド用スピーカー（USC-A310）**を台などの上に設置する場合、付属のすべり止め（厚さ約2mmのコルク）を底面のコーナー4ケ所に貼ってください。（下図参照）
床に直接置いて低音域が不自然に強調されたりする場合には、コンクリートブロックなどの固い台の上にのせるようにしてください。必要に応じて、別売りの床置きスタンド（ASS-101、ASS-80）、壁掛け、天井吊りブラケット（ASG-10）、テレビサイドブラケット（ASG-11R）のご使用をおすすめします。

※スピーカーとスタンドとの取り付けは、スタンドに付属の取り付けねじを使用して、スピーカー底面の取り付けねじ穴（ナット）にゆるみがなくなるまで完全に締め付けてください。

【フロント/サラウンド用スピーカー（USC-A310）背面図】

【フロント/サラウンド用スピーカー（USC-A310）底面図】

■ **フロント/サラウンド用スピーカー（USC-A310）**を壁に掛けて使用する場合
フロント/サラウンド用スピーカー（USC-A310）の背面にある壁掛け穴を利用して壁に掛けて使用できます。その場合、壁掛け用フックの穴にネジ頭などを差し込みます。（上図参照）スピーカーの質量に耐えられるしっかりした壁に取り付けてください。落下によるいかなる損害・事故についても当社はその責を負いません。

ご注意

- 安全にお使いいただくため、本体の上に物をのせたり、寄り掛かったりしないでください。
- スピーカー側面に力が掛かった場合、スピーカーが落下する恐れがあります。けがなど重大事故の原因になりますので、十分注意してください。.

取り扱い上のご注意（つづき）

■ **フロント/サラウンド用スピーカー（USC-A310）をスタンドまたはブラケットに取り付ける場合**
フロント/サラウンド用スピーカー（USC-A310）の底面にはM5のナットが60mm間隔で埋め込まれています。別売りの床置きスタンド（ASS-101、ASS-80）、壁掛け、天井吊りブラケット（ASG-10）、テレビサイドブラケット（ASG-11R）に取り付けることができます。取り付けに際しましては、ブラケットやスタンドの説明書に従い、十分注意してしっかりと設置してください。

■ **フロント/サラウンド用スピーカー（USC-A310）**を天井吊りブラケットに取り付けた際に取り付けの角度により逆さになります。そのときはDENONマークが逆さになりますので、サランネットを外して逆さに取り付けてください。

■ 近くにマグネット（磁石）など磁気を発生するものが置かれている場合には、本機との相互作用により、テレビに色むらを発生する場合がありますのでご注意ください。

【例】
- ラック、置き台などの扉に装着されたマグネットがあるとき
- マグネットを用いた健康器具などが近くに置かれているとき
- その他、マグネットを使用した玩具などが近くに置かれているとき

■ **スーパーウーハー（USW-310）**の上にレコードプレーヤー、DVDプレーヤーなどを置くと針とび、音とびを起こすことがあります。このような場合はレコードプレーヤー、DVDプレーヤーを別の場所に設置してください。

■ 長時間直射日光を受ける場所やストーブなどの暖房器具の近くに置くことは避けてください。

■ 湿気の多い場所やホコリの多い場所に置きますと、故障の原因となる場合があります。

警　告

- 天井や壁への取り付けは安全性確保のため、専門施工業者へ依頼してください。
- スピーカーコードを足や手に引っ掛けて本機を落下させることのないように、コードは必ず壁などに固定してください。
- 取り付け後は必ず安全性を確認してください。また、その後定期的に落下の可能性がないか安全点検を実施してください。取り付け場所、取り付け方法の不備によるいかなる損害、事故についても当社はいっさいその責を負いません。

3 主な特長

1．ドルビーデジタルデコーダー搭載

デジタル・ディスクリート方式のドルビーデジタルは、各チャンネルが独立して記録されているため、再生時のクロストークが極めて小さく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をよりリアルに再現。また低音効果用の0.1チャンネルを除く5チャンネルは、CDと同等以上の再生帯域を持ち、より表現力豊かでクリアな音の再現を実現しています。

2．DTSデコーダー搭載

再生チャンネルや再生帯域はドルビーデジタルと同様、FL、FR、C、SL、SRの5chに加えてLFE 0.1chを持つ5.1chで、他にステレオ2chモードがあります。いずれも各チャンネルの信号は完全に独立して記録されるため、各信号間の干渉、クロストークなどで劣化する心配はありません。DTSはドルビーデジタルに対して比較的高いビットレートとなり、相対的に低い圧縮率で動作するのが特徴です。

3．パーソナルメモリープラス機能を採用

従来のパーソナルメモリー機能をさらに進化させ、すべての入力ソースに対し、それぞれにサラウンドモードを自動的に記憶します。

4．ドルビープロロジックⅡデコーダー搭載

ドルビープロロジックⅡは、2チャンネルソースを5チャンネルで全帯域再生します。それをおこなうのが、ソースにない音や音の色付けを加えることなく、オリジナル録音の空間的特質を引き出す先進的で高音質のマトリックスサラウンドデコーダーです。

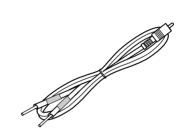
5．AACデコーダー搭載

BSデジタル放送にて使用される32kHzから48kHzまでのサンプリング周波数と、LCプロファイルの再生に対応しております。またチャンネル数は最大5.1chのデータに対応しています。

4 付属品について

★ 梱包箱の中には下記の付属品が入っています。ご使用の前にご確認ください。

<table>
<tr><td rowspan="3">リモコン（RC-944）…………1個
</td><td rowspan="3">単4形乾電池　…………………2本
</td><td>取扱説明書（本書）……………1冊</td></tr>
<tr><td>製品のご相談と
修理・サービス窓口一覧表 …1枚</td></tr>
<tr><td>保証書
（梱包箱に貼り付けられています。）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>接続コード A（長さ：約10m）……………………2本
※ サラウンド用スピーカー（USC-A310）の接続に使用します。
（接続コードのプラグおよびラベル色：青色/灰色）
接続コード B（長さ：約3m）　……………………4本
※ フロント用スピーカー（USC-A310）センター用スピーカー（USC-C310）スーパーウーハー（USW-310）の接続に使用します。
（接続コードのプラグおよびラベル色：白色/赤色/緑色/紫色）</td><td></td></tr>
<tr><td>すべり止め（1シート4個）……………6枚（計24個）</td><td></td></tr>
</table>

5 保証とサービスについて

1 この商品には保証書が添付されております。
保証書は所定事項をお買い上げの販売店で記入してお渡し致しますので、記載内容をご確認のうえ大切に保存してください。

2 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
万一故障した場合には、保証書の記載内容により、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口が修理を申し受けます。
但し、保証期間内でも保証書が添付されない場合は、有料修理となりますので、ご注意ください。
詳しくは、保証書をご覧ください。

※修理相談窓口については、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

3 保証期間後の修理については、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。

4 本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。

5 保証および修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。

※当社製品のお問い合わせについては、お客様相談窓口にご連絡ください。
詳しくは、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

6 接続のしかた

ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないようにしてください。
- 接続の際、本機に付属しています接続コード A、Bを使用しますが、接続コードは色別プラグおよびラベルで色分けがされていますので、AVサラウンドアンプのスピーカー端子と同色になるように接続してください。
- AVサラウンドアンプ背面のスピーカー端子は、付属のスピーカーの接続専用に設計されています。これらの端子には、絶対に指定以外の機器を接続しないでください。誤動作を起こすだけでなく、AVサラウンドアンプの故障や火災などの原因にもなります。
- 電源プラグはしっかり差し込んでください。不完全な接続は、雑音発生の原因になります。
- 接続コードと電源コードを一緒に束ねたり、電源トランスの近くに接続コードを設置しますと、ハムや雑音の原因となることがあります。
- AVサラウンドアンプには専用の接続コードで専用のスピーカー以外は接続しないでください。
- 通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。

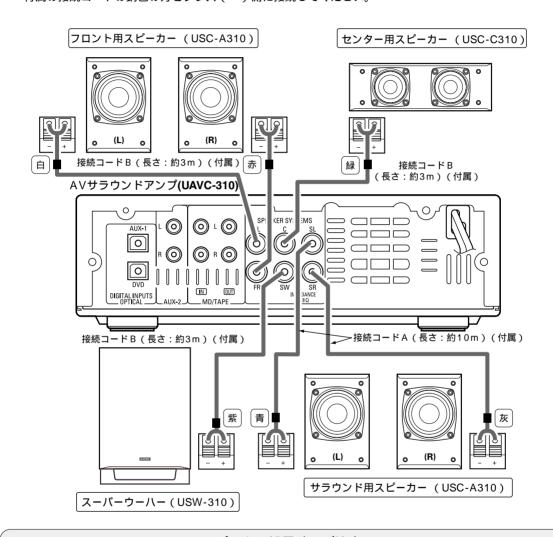
保護回路について

AVサラウンドアンプ（UAVC-310）には保護回路が内蔵されています。これはパワーアンプの出力が誤って短絡された際に大電流が流れたり、非常に大きな出力があった場合に、スピーカーを保護するためのものです。
また、内部温度が異常に上昇した場合に電源をスタンバイ状態にし本体を保護します。保護回路が動作するとスピーカーから音が出ません。（温度上昇による保護回路動作時は、電源表示LEDが速く点滅（1秒に2回）します。）このような場合は、必ずAVサラウンドアンプの電源プラグをコンセントから抜き、接続コードや入力コードの配線に異常がないかを確認の上、AVサラウンドアンプの温度が極端に上がっている場合は、AVサラウンドアンプが冷えるのを待って周囲の通風状態を良くしてからもう一度電源を入れ直してください。
配線やAVサラウンドアンプの周囲の通風に問題がないにも関わらず、保護回路が動作してしまう場合は、AVサラウンドアンプが故障していることも考えられますので、AVサラウンドアンプの電源プラグをコンセントから抜いた上で弊社のお客様相談窓口または修理相談窓口にご連絡ください。

接続のしかた（つづき）

(1) 通常の接続のしかた

★ 接続の際、本機に付属しています接続コード A、Bを使用しますが、接続コードは色別プラグおよびラベルで色分けがされていますので、AVサラウンドアンプのスピーカー端子と同色になるように接続してください。

※**付属の接続コードの銅色の方をプラス（＋）側に接続してください。**

スピーカー設置時のご注意

テレビまたはモニター受像機に近付けるとスピーカーの磁気により画面に色ズレが生じることがあります。この場合は影響のない位置に離してください。

接続のしかた（つづき）

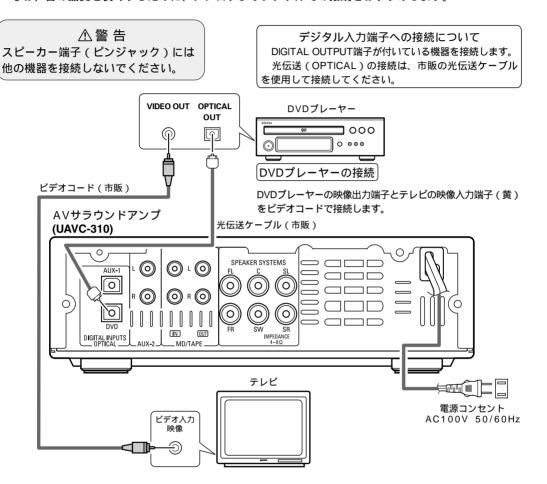
（2）DVDプレーヤーとモニターTVを接続する

★ 接続の際は、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
★ 接続コードをそれぞれの端子に間違えないように接続してください。
※ ドルビーデジタル、DTSなどマルチチャンネル信号を再生する場合は、デジタル音声の接続が必要です。
　なお、音の品質を良くするために、アナログよりデジタルでの接続をおすすめします。

⚠警 告
スピーカー端子（ピンジャック）には他の機器を接続しないでください。

デジタル入力端子への接続について
- DIGITAL OUTPUT端子が付いている機器を接続します。
- 光伝送（OPTICAL）の接続は、市販の光伝送ケーブルを使用して接続してください。

DVDプレーヤーの接続

DVDプレーヤーの映像出力端子とテレビの映像入力端子（黄）をビデオコードで接続します。

ご注意

本機には、映像信号切り替え機能がありません。テレビの切り替えをご使用ください。

（3）周辺機器との接続

★接続の際は、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

BSデジタルチューナーなどの接続

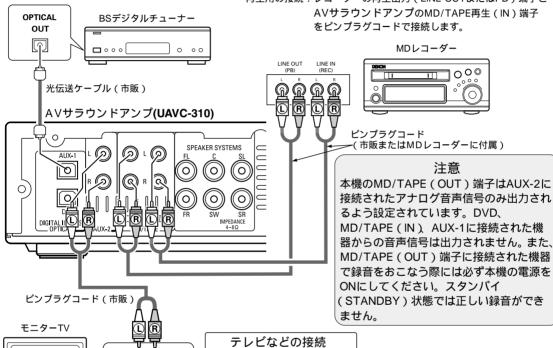
- BSデジタルチューナーなどのデジタル音声出力端子とAVサラウンドアンプのデジタル音声入力端子（AUX-1）を市販の光伝送ケーブルで接続します。

レコーダーなどの接続

録音用の接続：レコーダーの録音入力（LINE INまたはREC）端子とAVサラウンドアンプのMD/TAPE録音（OUT）端子をピンプラグコードで接続します。

再生用の接続：レコーダーの再生出力（LINE OUTまたはPB）端子とAVサラウンドアンプのMD/TAPE再生（IN）端子をピンプラグコードで接続します。

注意

本機のMD/TAPE（OUT）端子はAUX-2に接続されたアナログ音声信号のみ出力されるよう設定されています。DVD、MD/TAPE（IN）、AUX-1に接続された機器からの音声信号は出力されません。また、MD/TAPE（OUT）端子に接続された機器で録音をおこなう際には必ず本機の電源をONにしてください。スタンバイ（STANDBY）状態では正しい録音ができません。

テレビなどの接続

- テレビなどのアナログ音声の出力（OUTPUT）端子とAVサラウンドアンプのAUX-2端子をピンプラグコードで接続します。

ドルビーデジタルRF（AC-3RF）出力端子付きLDプレーヤーの接続について

デジタル入力端子にLDプレーヤーのドルビーデジタルRF（AC-3RF）出力端子を接続する場合は、市販のRFデモジュレーターを使用してDVDまたはAUX-1端子に接続してください。
接続の際には、RFデモジュレーターの取扱説明書もあわせてご覧ください。

（4）スピーカーの接続

■スピーカー端子への接続方法

①接続コード先端の被覆をはずす。

②接続コードの先端の芯線がバラけないように手でしっかりよじる。

③レバーを押し下げます。

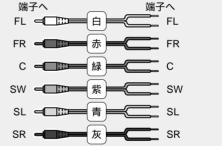
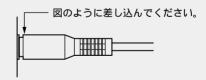
④コードの芯線を穴の中に差し込みます。

⑤レバーを離します。

⑤接続コードを軽く引っ張って抜けないことを確認してください。

ご注意

- プラス（＋）とマイナス（－）を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続しないでください。
- **付属の接続コードの銅色の方をプラス（＋）側に接続してください。**
- 回路の故障を防ぐため、接続コードの芯線のプラスとマイナスまたはL/Rを絶対にショートさせないでください。

- 接続コード A、Bは、次のように接続してください。

- 接続コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。

- 接続コード A、Bは、その他の接続コードと一緒に束ねないでください。音質が悪くなることがあります。

接続のしかた（つづき）

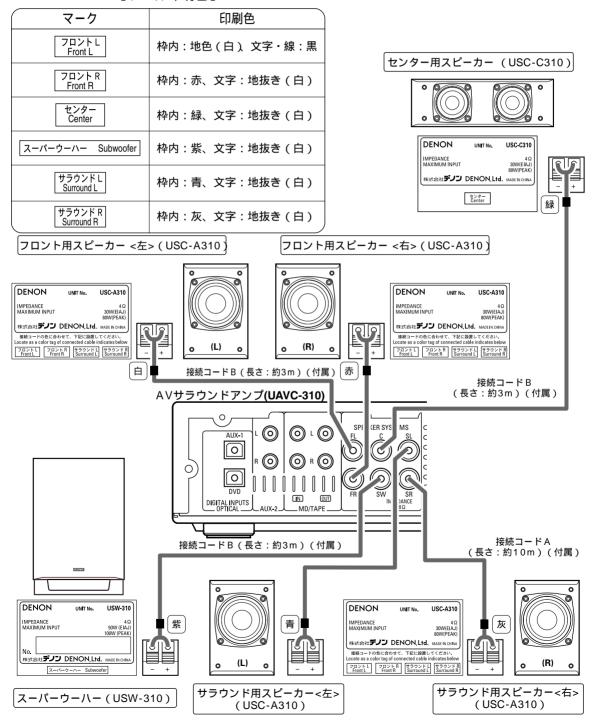
■スピーカーの接続

★ スピーカーシステムをAVサラウンドアンプに接続する場合は、必ずAVサラウンドアンプの電源を切ってからおこなってください。

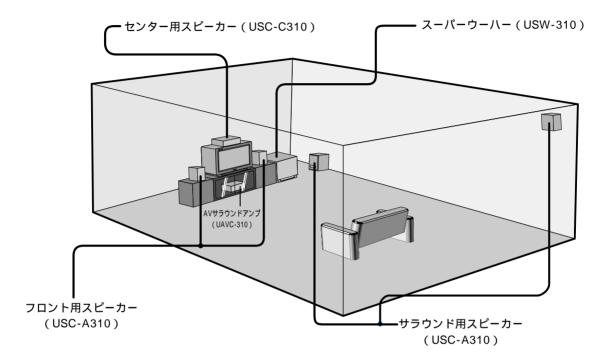
★ 付属の接続コードの銅色の方をプラス（+）側に接続してください。

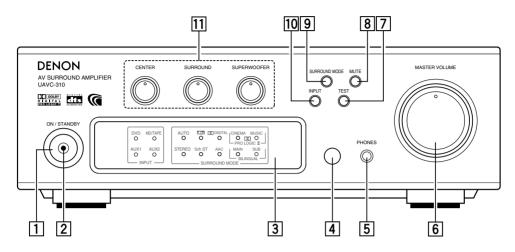
【ラベル印刷色】

マーク	印刷色
フロント L Front L	枠内：地色（白)、文字・線：黒
フロント R Front R	枠内：赤、文字：地抜き（白）
センター Center	枠内：緑、文字：地抜き（白）
スーパーウーハー Subwoofer	枠内：紫、文字：地抜き（白）
サラウンド L Surround L	枠内：青、文字：地抜き（白）
サラウンド R Surround R	枠内：灰、文字：地抜き（白）

接続のしかた（つづき）

（5）設置のしかた

★ スピーカーシステムのレイアウト（基本的なシステムレイアウト）

● スピーカーシステム（6台）とテレビを組み合わせた基本的なシステムレイアウトの例です。

7 各部の名前とはたらき

(1) フロントパネル

1 電源ボタン（ON/STANDBY）

- 押して『ON』にすると電源が入り、もう一度押すとスタンバイ状態になります。

2 電源表示インジケーター

- スタンバイ状態のときに点灯します。（電源コードがコンセントから抜けたときに消灯します。）
- ミュート時には、ゆっくり点滅します。（約1秒に1回）
- 温度上昇による保護回路動作時に、速く点滅します。（約1秒に2回）

3 ディスプレイ

- 入力モードやサラウンドモードが表示されます。

4 リモコン受光部

- リモコン（RC-944）をこの受光部に向けて操作してください。

5 ヘッドホンジャック（PHONES）

- ヘッドホンでお楽しみいただくときに使用します。（ヘッドホンは別売り）
- ヘッドホンを差し込むと、音声はヘッドホンからのみ聞こえ、スピーカーからの音声は聞こえなくなります。

6 主音量調節つまみ（MASTER VOLUME）

- 音量を調節します。
- つまみを右（Ω）に回すと音が大きくなり、左（Ω）に回すと小さくなります。

7 テストトーンボタン（TEST）

- 各スピーカーの再生レベルを調節するときに使用します。

8 ミュートボタン（MUTE）

- 一時的に音声を消したいときに使用します。

9 サラウンドモード切り替えボタン（SURROUND MODE）

- サラウンドモードを切り替えるときに使用します。

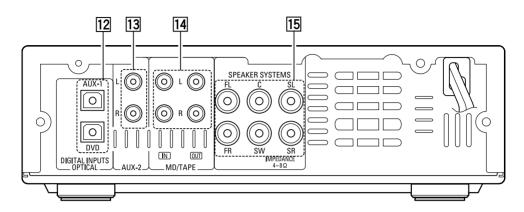
10 入力切り替えボタン（INPUT）

- 入力を切り替えるときに使用します。

11 スピーカー音量調節つまみ

- 各スピーカー（センター/サラウンド/スーパーウーハー）のそれぞれの音量を調節します。

各部の名前とはたらき（つづき）

（2）リアパネル

⑫ デジタル音声入力端子（DIGITAL INPUTS）

- DVDプレーヤー、BSデジタルチューナーなどのデジタル音声出力（OPTICAL）端子と光伝送ケーブルで接続します。

⑬ アナログ音声入力端子（AUX-2）

- テレビなどのアナログ音声出力（ANALOG OUT）端子とピンプラグコードで接続します。

⑭ アナログ音声入出力端子（MD/TAPE INPUT/OUTPUT）

- MDレコーダー、テープデッキなどの録音入力（LINE INまたはREC）端子および再生出力（LINE OUTまたはPB）端子をピンプラグコードで接続します。

注意

本機のMD/TAPE（OUT）端子はAUX-2に接続されたアナログ音声信号のみ出力されるよう設定されています。DVD、MD/TAPE（IN）、AUX-1に接続された機器からの音声信号は出力されません。また、MD/TAPE（OUT）端子に接続された機器で録音をおこなう際には必ず本機の電源をONにしてください。スタンバイ（STANDBY）状態では正しい録音ができません。

⑮ スピーカー端子（SPEAKER SYSTEMS）

- フロント用スピーカー（USC-A310）とスピーカー端子（左（FL）/右（FR））を付属のスピーカーコードBで接続します。
- センター用スピーカー（USC-C310）とスピーカー端子（C）を付属のスピーカーコードBで接続します。
- サラウンド用スピーカー（USC-A310）とスピーカー端子（左（SL）/右（SR））を付属のスピーカーコードAで接続します。
- スーパーウーハー（USW-310）とスピーカー端子（SW）を付属のスピーカーコードBで接続します。

8 リモコンについて

★付属のリモコン（RC-944）を使うと、離れたところから本システムをコントロールすることができます。

（1）乾電池の入れかた

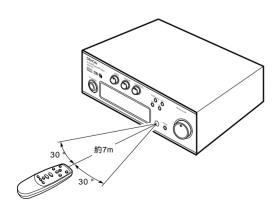
① 矢印のように押して裏ぶたを引き上げます。

② 単4形乾電池（2本）をそれぞれ乾電池収納部の表示通りに入れてください。

③ 裏ぶたを元通りにしてください。

ご注意

- リモコンには単4形乾電池をご使用ください。
- リモコンの使用回数にもよりますが、乾電池は約1年毎に新しいものと交換してください。
- 1年経っていなくてもリモコンを本機の近くで操作して本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。
- 付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。
- 乾電池を入れるときは、リモコンの乾電池収納部の表示通りに⊕側・⊖側を合わせて正しく入れてください。
- 破損、液漏れの恐れがありますので、
  - ・新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - ・違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - ・乾電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入したりしないでください。
- リモコンを長時間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- 乾電池を交換するときはあらかじめ交換用の乾電池を用意し、できるだけ速やかに交換してください。

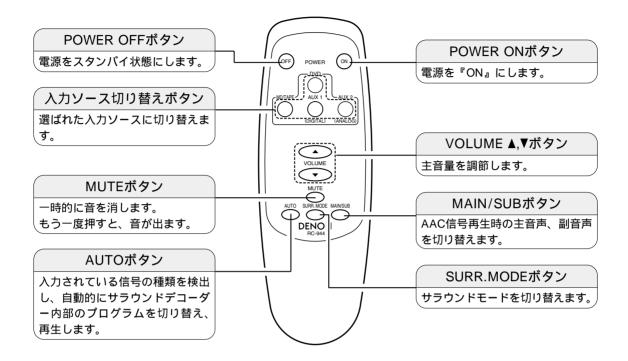
（2）リモコンの使いかた

- リモコンは、図のようにリモコン受光部に向けて使用してください。
- 直線距離で約7m離れたところまで使用できますが障害物があったり、リモコン受光部に向いていないと受信距離は短くなります。
- リモコン受光部を基準にして左右30°までの範囲で操作できます。

ご注意

- リモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっていたり、リモコン受光部との間に障害物があるとリモコンが動作しにくくなります。
- 本体とリモコンの操作ボタンを同時に押さないでください。誤動作の原因になります。

リモコンについて（つづき）

(3) リモコンボタンの名前とはたらき

★ 特に説明のないボタンは、本体と同じはたらきをします。（18ページ参照）

9 サラウンドについて

★AVサラウンドアンプ（UAVC-310）に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

(1) ドルビーサラウンドについて

① ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、ドルビー研究所が開発したマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルはCDと同等以上の再生帯域（高域は20kHz以上再生可）を持つフロント3ch FL、FR、C（フロント左、右およびセンター）とサラウンド2ch SL、SR（サラウンド左、右）に加え、低域（～120Hz）効果音専用のLFE（ロー・フリクエンシー・エフェクト）の合計5.1chに対応しており、更にモノラル1chやステレオ2ch、ドルビープロロジック信号の伝送など幅広い対応ができます。
また各チャンネルの信号はそれぞれ完全に独立して記録されるため、各信号間の干渉、クロストークなどで劣化する心配がありません。これらのデジタル信号を、高効率符号化技術によってCDの半分以下のデータ量（最大640kbps）にて伝送可能といった特徴を持っています。
この特徴を映画のサウンドトラックに生かし、映画館用に開発されたサラウンドシステムが『DOLBY SR-D（ドルビーステレオデジタル）』です。従来一般的であったドルビーサラウンド（ドルビープロロジック）がアナログ・マトリクス方式であったのに対して、各チャンネルが完全に独立したデジタル・ディスクリート方式となり、音の遠近感、移動感、定位感のある音場をよりリアルに再現することができるようになりました。そしてドルビーデジタル対応メディアであるLD、DVDなどは、AVルームでDOLBY SR-Dのサラウンドトラックをそのまま再現することを可能にしたため、映画館と同様に驚くほどリアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

◎SR-Dとドルビーデジタルの関係

35mmドルビー
SR-Dフィルム
光学アナログ
音声トラック
光学デジタル音声トラック
（5.1チャンネル）

［ドルビーデジタル対応LDの記録信号スペクトラム］
(dB)
記録レベル
デジタル
音声信号
FM
音声信号
AC-3音声
信号(圧縮)
FM音声信号
1 2 4 6 8 14(MHz)

◎ドルビーデジタルとドルビープロロジック

家庭用サラウンド方式比較	ドルビー・デジタル	ドルビー・プロロジック
記録(素材)ch数	5.1ch	2ch
再生ch数	5.1ch	4ch
再生ch構成（MAX）	FL, FR, C, SL, SR, SW	FL, FR, C, S（SWは推奨）
音声処理	デジタル・ディスクリート処理 ドルビーデジタル（AC-3）エンコード、デコード	アナログ・マトリックス処理 ドルビー・サラウンド
サラウンドchの高域再生限界	20kHz	7kHz

◎ドルビーデジタル対応メディアとその対応方法

ドルビーデジタル対応マーク： DOLBY DIGITAL または DOLBY SURROUND AC-3 DIGITAL

以下の内容は一般的な例です。必ずお手持ちの再生機器の取扱説明書と合わせて確認してください。

メディア	ドルビーデジタル出力端子	再生方法（参照ページ）
LD（VDP）	ドルビーデジタルRF出力専用同軸端子 ※1	入力モードを『AUTO』に設定します。（26、27ページ参照）
DVD	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）※2	入力モードを『AUTO』に設定します。（26、27ページ参照）
その他（衛星放送、CATVなど）	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）	入力モードを『AUTO』に設定します。（26、27ページ参照）

サラウンドについて（つづき）

※1：デジタル入力端子にドルビーデジタルRF（AC-3 RF）出力端子を接続するときは、市販のRFデモジュレーターを使用してください。（RFデモジュレーターの取扱説明書を参照してください。）
※2：DVDのデジタル出力には、ドルビーデジタル信号の出力方法を『ビットストリーム』と『PCM（に変換）』とで切り替える機能を持つものがあります。本機でドルビーデジタルサラウンド再生をおこなう場合は、これらのモードを『ビットストリーム』に切り替えてください。またデジタル出力が『ビットストリーム/PCM兼用』と『PCM専用』に分かれている場合があります。この場合は『ビットストリーム/PCM兼用』端子を本機に接続してください。

② ドルビープロロジックⅡ

◎ドルビープロロジックⅡは、従来のドルビープロロジック回路を更に進化させたフィードバックロジックステアリング技術を用いて、ドルビー研究所により開発された新しいマルチチャンネル再生方式です。
◎ドルビーサラウンド録音されたソース（※）に加え、音楽ソースなどの通常のステレオ録音ソースも5ch（FL、FR、C、SL、SR）の信号にデコードし、サラウンド再生を楽しむことができます。
◎サラウンドチャンネルの再生周波数帯域は、帯域制限のあった従来のドルビープロロジックに比較して広帯域（20～20kHz以上）になっています。また、従来サラウンドチャンネルはサラウンドL（左）＝サラウンドR（右）のモノラル再生でしたが、新たにステレオ信号として再生する方式をとっています。

※“ **ドルビーサラウンド録音されたソース** ”とは

- 3ch以上で構成されるサラウンド信号を、ドルビーサラウンドエンコード技術によって2chの信号として記録したソースです。
- DVD、LD、ステレオVTRで再生される映画のサウンドトラックをはじめ、FM、TV、BS、CSなどのステレオ放送信号にて用いられています。
- この信号に対して、プロロジックデコードを施すことにより、マルチチャンネルでのサラウンド再生が可能になりますが、一般的なステレオ機器でそのままステレオ再生することも可能です。
- ドルビーサラウンド録音信号には2種類あります。
  - ① PCMステレオ2ch信号
  - ②ドルビーデジタル2ch信号

◎ドルビーサラウンド録音されたソースには以下のロゴマークが表示されています。

ドルビーサラウンド対応マーク： DOLBY SURROUND

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
“ Dolby ”、“ Pro Logic ” およびダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

（2）DTS デジタルサラウンドについて

DTSデジタルサラウンド（または単にDTSと呼ばれます）は、デジタル・シアター・システムズ社が開発したマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルや再生帯域はドルビーデジタルと同様、FL、FR、C、SL、SRの5chに加えてLFE 0.1chを持つ5.1chで、他にステレオ2chモードがあります。いずれも各チャンネルの信号は完全に独立して記録されるため、各信号間の干渉、クロストーク等で劣化する心配はありません。
DTSはドルビーデジタルに対して比較的高いビットレート（CD/LDで1234kbps、DVDは1536kbpsか768kbps）となり、相対的に低い圧縮率で動作するのが特徴です。そのためデータ量が多く、映画館においてのDTS再生は、フィルムと同期をとったCD-ROMを別途再生する方法がとられています。
もちろんLDやDVDにおいてはそういった心配はなく、1枚のディスクに映像とサウンドが同時に記録できるため、他のフォーマットと同様の取り扱いができます。
この他のメディアにはDTS録音されたCDがあります。これは従来の（2ch録音された）CDと同様のメディアに5.1chのサラウンド信号が記録されたもので、映像はありませんが、CDプレーヤーを使ってサラウンド再生が可能となるという特徴があります。
DTSによるサラウンドトラック再生も映画館とAVルームの間で基本的な違いは無く、映画館と同様の緻密で雄大なサウンドを楽しむことができます。

◎DTS対応メディアとその再生方法

DTS対応マーク： DIGITAL dts SURROUND または dts

以下の内容は一般的な例です。必ずお手持ちの再生機器の取扱説明書と合わせて確認してください。

メディア	ドルビーデジタル出力端子	再生方法（参照ページ）
CD	光または同軸デジタル出力（PCMと共通） ※2	サラウンドモードを『DTS』に設定します。（31ページ参照）
LD（VDP）	光または同軸デジタル出力（PCMと共通） ※2	サラウンドモードを『DTS』に設定します。（31ページ参照）
DVD	光または同軸デジタル出力（PCMと共通） ※3	サラウンドモードを『AUTO』または『DTS』に設定します。（26、27、31ページ参照）

※1：CDやLDのDTS信号は、通常のCDやLDにおけるPCM信号がそのままDTS信号に置き換わった形で記録されています。そのためCD、LDプレーヤーのアナログ出力からはDTS信号がノイズとなって出力されます。このノイズをアンプによって再生した場合、最悪のケースではUAVC-310やスピーカーなどの周辺機器が故障する可能性があります。これらの問題を避けるため、DTSで記録されたCDやLDを再生する前に、サラウンドモードを必ず『DTS』モードへ切り替えてから、ディスクの再生をおこなうようにしてください。また再生中は絶対に『STEREO』へは切り替えないでください。DVDプレーヤーやLD/DVDコンパチプレーヤーでCDやLDの再生をおこなうときも同様です。なおDVDメディアの場合は、DTS信号は専用の記録方式で記録されているため、問題はありません。
※2：CDまたはLDプレーヤーなどで、デジタル出力に何らかの信号処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換など）がおこなわれている場合があります。この場合誤ってDTS信号に信号処理がおこなわれてしまい、本機と接続しても正しく再生できずノイズなどが発声することがありますので、はじめてDTS再生をおこなう場合はまずマスターボリウムを絞り、DTSディスクの再生を開始すると本機のDTSインジケーター（27ページ参照）が点灯することを確認してからマスターボリウムを上げるようにしてください。
※3：DVDのDTSメディアは、その再生に対応したプレーヤーが必要です。お手持ちのDVDプレーヤーがDTS対応であるかはDVDプレーヤーのメーカーまたは販売店にご確認ください。

サラウンドについて（つづき）

(3) AACについて

◎ MPEG2-AAC (Advanced Audio Coding) はMPEG (Moving Picture Experts Group) が開発したマルチチャンネル音声フォーマットです。

◎ その特長は、高音質・高圧縮率を両立できることです。特に低ビットレート（高圧縮率）の環境においてドルビーデジタルやMP3 (MPEG Layer-3)など、従来のフォーマットに比べて高い音質を維持することが出来ます。具体的にはわずか96kbpsという低ビットレートで、CD並みといわれる品質のステレオ音声を伝送することが出来ます。

◎ その特長を生かしてポータブルオーディオなどへの応用が増加している一方、多チャンネルに対応しても全体のビットレートを低く抑えることが出来るため、日本のBSデジタル放送における5.1chサラウンド放送をはじめとする、サラウンドシステムへの応用が始まりました。

◎ MPEG2-AACは元々映像信号と音声信号の複合データであるMPEGデータの音声規格として開発されたため、その用途に応じて求められるスペックは多岐に渡ります。映像と組み合わせたトータルのビットレートを低く抑えるため低ビットレートでの音質確保、また多チャンネル伝送時のデータ量低減、業務用途のみに特化することなく使えるデータ処理の簡略化、それらは相反する要素を持ちますが、いずれの要求も満たせる様配慮され非常に柔軟性の高い規格になっています。そのため音声信号の種類やそのデータ作成環境に適合させるためにMAIN/LC/SSRプロファイルという3種類のデータ構造を持っています。

【MPEG2-AACのスペック（概要)】

- アルゴリズム ： MAINプロファイル
  LC(Low Complexity)プロファイル
  SSR(Scalable Sampling Rate)プロファイル
- サンプリング周波数 ： 8kHzから96kHzまで対応
- チャンネル数 ： 最大48チャンネルのマルチチャンネル伝送に対応
- その他の機能 ： LFE(Low Frequency Effect)サポート
  マルチリンガル(複数言語)サポート

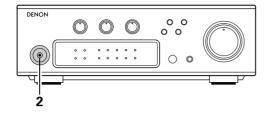
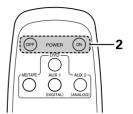
この中で本機は、BSデジタル放送にて使用される32kHzから48kHzまでのサンプリング周波数と、LCプロファイルの再生に対応しております。またチャンネル数は最大5.1chのデータに対応します。

※ MPEGによる音声規格は他にLayer-1,2,3等がありますが、それらとAACの間に互換性はありません。
本機はその中でさきに述べたAACの再生に対応します。

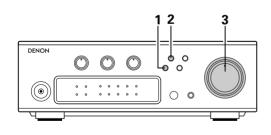
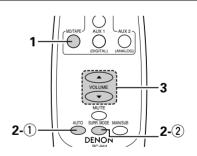
◎ 以下がAACに関する米国パテントナンバーです。

08/937,950	5 297 236	5,481,614	5,490,170
5848391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

10 操作のしかた

(1) 操作する前に

1	**『接続のしかた』(11～17ページ)を参照して、接続に間違いがないことを確認します。**	

2	**電源を入れます。**
	ON/STANDBY
	●本体のボタンを押すと電源が入り、ディスプレイが点灯します。もう一度押すと電源が切れてスタンバイ状態になり、ディスプレイが消灯します。
	リモコン(RC-944)のPOWER ONボタンを押すと、電源が入ります。また、POWER OFFボタンを押すと、電源が切れてスタンバイ状態になります。
	●ON/STANDBYボタンをONにしてから音声が出力されるまで、数秒間かかります。これは電源ON/OFF時の雑音を防止するミューティング回路が内蔵されているためです。
		(UAVC-310)
		  (リモコン)
		  (リモコン)

(2) 入力ソースの再生

1	**再生したいソースを選びます。** ※入力モード切り替えボタン(INPUT)を押すたびに、次のように切り替わります。(選択された入力モードのインジケーターが点灯します。) **DVD → MD/TAPE → AUX1 → AUX2** (→ DVD)	**【例】** DVD (UAVC-310)　(リモコン)

(次のページに続きます)

2 **①AUTO（オートモード）**

選択された入力ソースごとに入力されている信号の種類を検出し、自動的に本機のサラウンドデコーダー内部のプログラムを切り替えて再生するモードです。入力されている信号を判断し、DTS/ドルビーデジタル/ドルビープロロジックⅡ/AAC/ステレオのいずれかの方式で、自動的にデコードおよび再生をおこないます。（ご購入時は、初期設定が『AUTO』になっています。）

②MANUAL（マニュアルモード）

SURROUND MODEボタンを押します。

※ボタンを押すたびに、サラウンドモードが次のように切り替わります。（無信号入力時）サラウンドモードの切り替えの詳細は、下表を参照してください。

選択した機器の再生をはじめます。

※操作のしかたは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

3 **音量を調節します。**

入力信号	AUTOモード	MANUALモード
DOLBY DIGITAL（2.1以上）	DOLBY DIGITAL	DD DIGITAL → STEREO → AUTO（→ DD DIGITALへ戻る）
DOLBY DIGITAL（2.0以下）	DOLBY PROLOGICⅡ /CINEMA	DD PRO LOGICⅡ /CINEMA → DD PRO LOGICⅡ /MUSIC → STEREO → AUTO（→ DD PRO LOGICⅡ /CINEMAへ戻る）
DTS	DTS	DTS → STEREO → AUTO（→ DTSへ戻る）
AAC（2.0以外）	AAC	AAC → STEREO → AUTO（→ AACへ戻る）
AAC（2.0のみ）	DOLBY PROLOGICⅡ /CINEMA	DD PRO LOGICⅡ /CINEMA → DD PRO LOGICⅡ /MUSIC → STEREO → AUTO（→ DD PRO LOGICⅡ /CINEMAへ戻る）
PCM	DOLBY PROLOGICⅡ /CINEMA	DD PRO LOGICⅡ /CINEMA → DD PRO LOGICⅡ /MUSIC → 5CH STEREO → STEREO → AUTO → DTS（→ DD PRO LOGICⅡ /CINEMAへ戻る）
ANALOG	DOLBY PROLOGICⅡ /CINEMA	DD PRO LOGICⅡ /CINEMA → DD PRO LOGICⅡ /MUSIC → 5CH STEREO → STEREO → AUTO（→ DD PRO LOGICⅡ /CINEMAへ戻る）
PCM（96kHz/24bit）	STEREO	STEREO ↔ AUTO

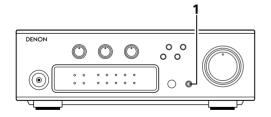
注意：MANUALモード時は入力されている信号を自動的に判断し、上表のように切り替えられるサラウンドモードが設定されます。また、信号を入力する前にMANUALモードで設定したサラウンドモードが入力した信号に対応しない場合は、自動的にAUTOモードへ移行します。

◎入力信号の表示（オートモード時）

- DOLBY DIGITAL信号の場合（2.1以上のとき）　AUTO　DOLBY DIGITAL
- DOLBY DIGITAL信号の場合（2.0以下のとき）　AUTO　CINEMA DOLBY PRO LOGIC Ⅱ
- DTS信号時　AUTO　DTS
- AAC信号の場合（2.0以外のとき）　AUTO　AAC
- AAC信号の場合（2.0のとき）　AUTO　CINEMA DOLBY PRO LOGIC Ⅱ
- PCM信号時　AUTO　CINEMA DOLBY PRO LOGIC Ⅱ
- ANALOG信号時　AUTO　CINEMA DOLBY PRO LOGIC Ⅱ

※本機が対応しないフォーマットのデジタル信号が入力された場合、選んだ入力のインジケーターとAUTOインジケーターが点滅します。その場合は、接続が正しいか、または機器の電源が入っているかを確認してください。
ゲーム機やDVDプレーヤーの中には、デジタル出力の有無を機器側の設定でおこなうものがありますので、プレーヤーの取扱説明書も確認してください。

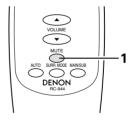
(3) 再生した後に

1 ヘッドホンで音を聞くには

1　ヘッドホン（別売り）で音声を聞くときには、ヘッドホンジャックにヘッドホンプラグを差し込みます。

※ヘッドホンプラグを差し込むと、自動的にスピーカー出力がOFFとなり、スピーカーより音は出ません。
※サラウンドモードは、自動的にSTEREOモードに切り替わります。

2 一時的に音を消すには（ミューティング）

1　MUTEボタンを押します。

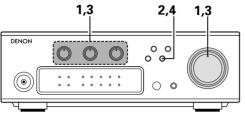
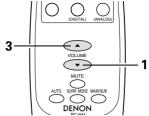
（リモコン）

※解除するときは、もう一度MUTEボタンを押してください。

ご注意

本機の電源をOFFにすると、設定が解除されます。

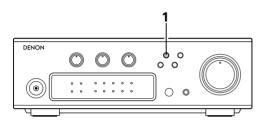
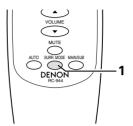
11 サラウンド再生のしかた

（1）サラウンド再生の前に

★サラウンド再生の前に、必ずテストトーンにより各スピーカーの再生レベルの調節をおこなってください。

1	**主音量を『最小』にし、各スピーカー音量調節つまみを『センター』にします。**	MASTER VOLUME （UAVC-310） VOLUME （リモコン） CENTER SURROUND SUPERWOOFER （UAVC-310）
2	**TESTボタンを押します。**	TEST （UAVC-310）
3	**主音量および各スピーカー音量調節つまみを調節し、各スピーカーの音量がリスニングポジションにおいて同じになるように調節します。** ※自動的にチャンネルが次のように切り替わります。（2秒ずつ） FL → CNTR → FR → SR → SL → SW → FL	TEST （UAVC-310） MASTER VOLUME （UAVC-310） VOLUME （リモコン） CENTER SURROUND SUPERWOOFER （UAVC-310）
4	**調節が終わったら、もう一度TESTボタンを押します。**	TEST （UAVC-310）

サラウンド再生のしかた（つづき）

(2) 5チャンネルステレオモード

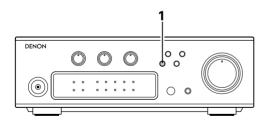
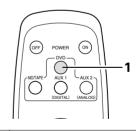
★サラウンド信号のLchにはフロントのLch信号、サラウンド信号のRchにはフロントのRch信号を出力し、センターchにはLchとRchの同相成分を出力します。ステレオサラウンドを楽しむためのモードです。

1	**5チャンネルステレオモードを選びます。** ●5ch STインジケーターが点灯します。 5ch ST — 点灯	SURROUND MODE （UAVC-310） SURR. MODE （リモコン）
2	**アナログまたはPCMプログラムソースを再生します。** ※操作のしかたは、各機器の取扱説明書をご覧ください。	

ご注意

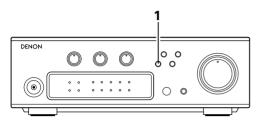
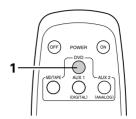
サンプリング周波数が96kHzのPCM信号再生時は『STEREO』モードのみお楽しみいただけます。
他のサラウンドモードで再生中にこの信号が入力されるとサラウンドモードは自動的に『STEREO』モードに切り替わります。

(3) ドルビーサラウンドプロロジックモードⅡ

1	**入力ソースを選びます。**	INPUT （UAVC-310） DVD （リモコン）
2	**DOLBY SURROUND マークの付いたプログラムソースまたはアナログ、PCMプログラムソースを再生します。** ※操作のしかたは、各機器の取扱説明書をご覧ください。	

ご注意

ドルビープロロジックⅡ/MUSICで再生するには、本体またはリモコンのサラウンドモードボタンで『ドルビープロロジックⅡ/MUSIC』を選択してください。

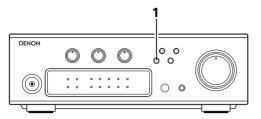
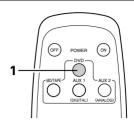
サラウンド再生のしかた（つづき）

（4）ドルビーデジタルモード（デジタル入力のみ）および DTSサラウンドモード（デジタル入力のみ）

1	**入力ソース（DVDまたはAUX-1）を選びます。**	【例】DVD INPUT　DVD （UAVC-310）　（リモコン）
2	**DOLBY DIGITAL、dts マークの付いたプログラムソースを再生します。** ● ドルビーデジタルソース再生中は、AUTO表示インジケーターとドルビーデジタル表示インジケーターが点灯します。 ● DTSソース再生中は、DTS表示インジケーターが点灯します。 AUTO —— 点灯 DIGITAL —— 点灯 dts —— 点灯	

ご注意

- ドルビーデジタルでエンコードされた信号は、ドルビーデジタル、ステレオのみ再生できます。その他のモードは、ドルビーデジタル信号を再生中においては動作しません。
- DTS方式で記録されたCDやLDを『ステレオ』で再生すると、ノイズが出力されますのでご注意ください。DTS方式で記録された信号を再生するときは、必ずデジタル（OPTICAL）入力端子に接続し『DTS』を選択してください。
- DTS信号は、DTSサラウンド、ステレオモードのみ再生できます。その他のモードは、DTS信号を再生中においては動作しません。

サラウンド再生のしかた（つづき）

(5) AACモード（デジタル入力のみ）

1	**入力ソース（AUX-1またはDVD）を選びます。**	【例】AUX-1 INPUT DVD （UAVC-310） （リモコン）
2	**AACプログラムソースを再生します。** ● AAC（2.0以外）のソース再生中は、AUTO表示インジケーターとAAC表示インジケーターが点灯します。 ● AAC（2.0）のソース再生中は、DOLBY PLOLOGICⅡ/CINEMA表示インジケーターが点灯します。 AUTO —— 点灯 AAC —— 点灯 点灯 —— CINEMA PRO LOGIC Ⅱ	
3	**再生しているAACソースが二重音声ソースの場合** ● リモコン（RC-944）のMAIN/SUBボタンで下記のように再生音声を切り替えることができます。（ご購入時は、初期設定が『主音声』になっています） 主音声 → 副音声 → 主音声/副音声 ◎**主音声：** 主音声が出力されます。（MAIN SUB BILINGUAL 点灯） ◎**副音声：** 副音声が出力されます。（MAIN SUB BILINGUAL 点灯） ◎**主音声/副音声：** 主音声は左チャンネルから副音声は右チャンネルから出力されます。（MAIN SUB BILINGUAL 点灯）	MAIN/SUB （リモコン）

12 ラストファンクションメモリーについて

★AVサラウンドアンプ（UAVC-310）には電源をOFFにする直前の各種ボタンの設定状態を記憶するラストファンクションメモリー機能を備えています。電源をONにすると、電源をOFFにする直前の入出力状態が呼び出されますので、再度設定し直す必要はありません。

★また、AVサラウンドアンプ（UAVC-310）にはバックアップメモリー機能を備えています。これにより電源がOFFになったとき、および電源コードを抜いた場合でも各種ボタンの設定状態をバックアップして約1週間保持することができます。

13 故障かな？と思ったら

故障？と思っても、もう一度確かめてみましょう

■各接続は正しいですか
■取扱説明書に従って正しく操作していますか

正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。なお、この表の各項にも該当しない場合は故障とも考えられますので、電源を切り、電源プラグを電源コンセントから抜きとり、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、当社のお客様相談窓口またはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

現　　象	処　　置	関連ページ
電源が入らない。	●電源プラグを電源コンセントへしっかりと差し込んでください。	13
リモコンで操作できない。	●乾電池は、⊕⊖を確かめて正しく入れてください。 ●乾電池が消耗していますので、新しい乾電池に交換してください。 ●リモコン受光部に向けて操作してください。 ●リモコン受光部との距離が7m以内のところで操作してください。 ●リモコン受光部との間にある障害物を取り除いてください。	20 20 20 20 20
ディスプレイは点灯するが音が出ない。	●各接続コードの接続が不完全であると思われますので、しっかりと接続してください。 ●入力ソースを正しく選択してください。 ●主音量調節つまみを適当な位置まで回してください。 ●ミューティングを解除してください。	12〜16 26 27 28
ステレオのときに、各楽器の位置が入れ替わっている。	●スピーカーまたは入力コードの接続が逆になっていると思われますので、左右の接続を確認してください。	12、16
サラウンド用スピーカーから音が出ない。	●サラウンドモードがSTEREOになっていると思われますので、STEREO以外のサラウンドモードにしてください。	26〜28
DTS音声が出ない。	●DTS対応のプレーヤーを使用してください。	24
音が歪む。	●主音量調節つまみを左に回し、音量を下げてください。 ●サブウーハーの音が歪む場合は、UAVC-310の低音調節つまみまたは主音量調節つまみを下げてください。 ●スピーカーの接続コードがショートしている可能性があります。接続を確認してください。	27 29 11、12、15
音が一瞬途切れることがある。	●サラウンドモードをAUTOにしておくと、ディスクの種類を変えたときやDVDのレイヤーチェンジ部などで音途切れを生じることがあります。このような場合は、ディスクの音声フォーマット（DOLBY DIGITAL、DTS）に合わせて、アンプのモードをマニュアルで選んでください。 ●過大な音量を出すと、アンプの保護回路が動作し、音が途切れます。主音量調節つまみを左に回し、音量を下げてください。	27 11、18、21

故障かな？と思ったら（つづき）

ご注意

- AVサラウンドアンプ（UAVC-310)は高出力アンプ搭載のため、本体が熱くなる場合があります。一定の内部温度（検出点が約85℃）になると内蔵の空冷ファンが動作し、内部温度を下げるよう設計されています。
  空冷ファンが動作するまで、本体が熱くなる場合がありますが故障ではありません。異常があり温度が高くなった場合は保護回路が働き、電源表示LEDが早く点滅（1秒に2回）し、スピーカーから音声が出力されなくなります。
  本体が熱くなり音声が出力されなくなった場合、すぐに電源プラグをコンセントから抜いた上で本書6ページ『設置の際のご注意』に従い、きちんと設置されているかを確認してください。
  設置、接続に問題がない場合は故障が考えられますので、電源プラグをコンセントから抜いたまま弊社のお客様相談窓口にご連絡ください。

14 主な仕様

(1) AVサラウンドアンプ (UAVC-310)

実用最大出力	フロント：　20W＋20W（負荷4Ω、EIAJ） センター：　20W（負荷4Ω、EIAJ） サラウンド：　20W＋20W（負荷4Ω、EIAJ） スーパーウーハー：20W（負荷4Ω、EIAJ）
出力端子	4Ω〜8Ω
入力感度	200mV/47kΩ
周波数特性	50Hz〜20kHz：±3dB（ステレオモード時、総合）
S/N比	75dB
電源	AC100V　50/60Hz
消費電力	電源入り（ON）時：　70W（電気用品安全法による） 待機（スタンバイ）時：1W以下
最大外形寸法	210（幅）×70（高さ）×315（奥行き）mm （フット・つまみ・端子を含む）
質量	4.2kg

■リモコン　（RC-944）

リモコン方式	赤外線パルス式
乾電池	R03/AAA（単4形）乾電池2本使用
外形寸法	45（幅）×130（高さ）×23（奥行き）mm
質量	70g（乾電池を含む）

主な仕様（つづき）

（2）スピーカーシステム（USC-A310、USC-C310、USW-310）

■ フロント/サラウンド用スピーカー（USC-A310）

形式	1ウェイ・1スピーカー、密閉型、防磁設計、ブックシェルフ
再生周波数帯域	120Hz〜20kHz
入力インピーダンス	4Ω
最大許容入力	30W（EIAJ）、80W（PEAK）
平均出力音圧レベル	89dB（1W・1m）
スピーカーユニット	フルレンジ（8cmコーン型×1）
寸法	95（幅）×140（高さ）×120（奥行き）mm（サランネットを含む）
質量	0.9kg（1台当り）

■ センター用スピーカー（USC-C310）

形式	1ウェイ・2スピーカー、密閉型、防磁設計、センター
再生周波数帯域	120Hz〜20kHz
入力インピーダンス	4Ω
最大許容入力	30W（EIAJ）、80W（PEAK）
平均出力音圧レベル	89dB（1W・1m）
スピーカーユニット	フルレンジ（5.7cmコーン型×2）
寸法	210（幅）×70（高さ）×164（奥行き）mm（サランネットを含む）
質量	1.0kg（1台当り）

■ スーパーウーハー（USW-310）

形式	1ウェイ・1スピーカー、バスレフ型、防磁設計
再生周波数帯域	30Hz〜240Hz
最大入力	50W（EIAJ）、100W（PEAK）
入力インピーダンス	4Ω
スピーカーユニット	16cmコーン型×1
寸法	210（幅）×315（高さ）×302（奥行き）mm（DENONマークを含む）
質量	5.0kg（1台当り）

※ EIAJ：（社）電子情報技術産業協会（略称JEITA）が制定した規格です。

※ 仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。
※ 本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。
※『防磁設計』とは、（社）電子情報技術産業協会（略称JEITA）の技術基準に適合したスピーカーシステムです。

※ 本機は国内仕様です。
必ずAC 100Vのコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。
AC 100V以外の電源には絶対に接続しないでください。

株式会社デノン

本　　社　　〒113-0034 東京都文京区湯島3-16-11
お客様相談センター　　TEL：（03）3837-8919
受付時間　9：30〜12：00、12：45〜17：30
（弊社休日および祝日を除く、月〜金曜日）

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、
次の URL でもご確認できます。
http://denon.jp/info/info02.html

後日のために記入しておいてください。			
購 入 店 名：		電　話（　　-　　-　　）	
ご購入年月日：	年	月	日

Printed in China　511 4094 004